

ツコイ印象が残っている。卒業アルバムもその時の写真も現在行方を知らず。

市川市立図書館に勤めた時に、突如自分用のカメラが欲しくなり、昼飯節約してニコンの廉価版 Nikonat 購入。その後気まぐれもあって8ミリフィルムの小型カメラとか水中カメラとか何種類かの何台かを使った。

市川学園勤務の時には記録用、教材製作用としてニコンF、キヤノンの8mmムービーカメラを購入してもらって使った。記録ではビデオカメラを備えていたとあるが、使ったことを思い出せない。その時のビデオってオープンリールですけど、わかりますか？

今持っているガラケーとデジタルカメラは、力さんに教える請うている中で、フィルムカメラとはまったく別物であることを知った。プリントが簡単になった、ということそんな程度の私の認識は間違っていた。



ある撮影会の撮影風景。皆さん一眼レフでしょ。モデル撮影初心者ばかりでポーズを注文できないので、モデルが自主的にポーズを変えてくれます。「指導者」が用意されていることとあります。1970/5/24、赤城山

浜町から 風の便り 24

2021 (令和3) / 5/15.
船橋市浜町 辻 秀幸

ジャパ

日光写真は別として、最初のカメらは、父が使っていた蛇腹式のカメラ。スリガラスで構図とピントを決めて、フィルムケースを取り付けてパシャッターと写す。レンズは紙だか布だかで作られている蛇腹式の筒でフィルムのある胴体とつながっていて、レールの上を前後させる。フィルムはガラスに感光材を塗った乾板を使うのが本来のカタチで、セルロイド？のロールフィルムを使える部品が用意されている。写真が一般大衆にも使えるようになった時代の代表的なスタイルだろう。

フィルムはローニー版といっていた6x9のサイズ8枚ぐらいを写せる長さのものが市販されていた。くわしくお話ししたいが省略。残念。

フィルムはやがて皆さんご記憶の、バトロネ入り35ミリ幅となる。カメラは小型化と同時に、2眼レフが現れ、一眼レフとなり、現在は液晶画面を見つつ小さなカードに記録するのが当たり前になった。

高校卒業アルバム用に、許しを得て授業中の先生を写したが、カメラは級友N君に借りたと思う。このカメラはコンタックスとかライカとかに似たカ

め。素潜りで水深1mで我慢する。とかなんとかしているうちに消化器の事はすっかり忘れてしまっていた。

オマケノスツチャデス



飛行機たびのお友達。エアガール、スチュワーデス、キャビンアテンダント。スツチャデスのことは写真だけにして、タビチヘは研修のお話です。

タビチヘは研修で行った。だから研修をす。その一つが排水口での流れの向き。バスタブや洗面台の水を流すとどちらかの向きで排水口に流れ込む。北半球と南半球とで違うという説がある。

モレーアでは右回り、時計回りであった。ニューカレドニア旅行でも右回りとメモしている。北半球にお住いのはずの皆さんのお宅ではどちら回りですか。

日常目にする範囲でどっちかな〜と観察するのは面白いか〜と思います。お孫さんのステイホームの暇つぶしにどうかな〜。国際運転免許を有効利用して車を借りて島一周。スズキ・ジムニーを左ハンドルにしたヤツ。床が破れていて地面が見えて足が地についた妙な安心感がある。一か所のみ交差点を曲がったら道の左側を走っている。あわてて修正。ここはフランス領。途中下車しつつ、民家が南北どちら向きに建てられているか念入りに観察したが、メモがよい加減で、バスタブを含めて研修成果は信頼性に乏しい。

た時はボーっととなっていた。夜寝静まった時、つばでも誤嚥したのかむせて止まらなくなった。申し訳ないので、宿を出てうろつ。でも、意識するせいかますますのどに絡んで、静かな島の夜を咳払いで織りこめてしまった。

飛行機で神津島よりもっと南の島へ行こうと誘われた。飛行機に乗りたかったが、消化器に欠陥があると告白して断った。Sさんが、けつに紙丸めて突っ込んできやいい、と言った。じゃそうするか、と同行決断。初めての海外旅行を楽しんだ。

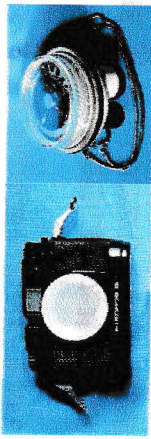
工さんが、グアムでは、女性はどうか？に出歩かないこと、銃で撃たれる、命にかかわらぬよう尿を撃つ、と注意されているのを聞いて窓から見ると、若者たちが銃(空気銃?)らしき物を持ってぶらついている。なるほどここは外国なんだと納得した。

その工さんがシュノーケリングを志し、潜るところを見た。サイパンだったか。羨ましかったが、左耳を幼少の頃に爛め、穴があいていると言われている時なので、水中で上下がわからなくなるとの恐れがあり、始めからあきら



がんばるとこの程度が難れる。右足につけているのはシーナイフですか？シーナイフには指がつかみやすいため、のど、サイパン 1978/3/30.

水中カメラ



左 NIKONOS-IIIのボディ。シロウトでも使える本格的な水中カメラ。右は水中用改造機。

タイトルの水深 10mをめざす男性はイさん。サイパン。1978/3/30。写したのは上写真左のニコノス。レンズは、その後買った改良型ボディと共に義弟の店に商品として提供。

テレビで見える華麗なお魚が簡単に写せる、というわけにはいかない。タイトルバックのように青く写るし、ピンも露出も、スマホカメラのようにはいかない。魚もナマコも写したが、お恥ずかしい出来です。

私ははいかげんで、空中用カメラの場合も買ってそのまま使うだけ。朝夕用にフィルターが必要で、と読むとさっそく購入するが、どう使えばよいのか調べもしないで付けるだけ。

望遠レンズが欲しくなった。最初に手に入れたのは 200 ミリ。手持ちでも十分使えるという触れ込み。これも単に標準レンズと交換するだけという使い方だったので、コントラストの弱い写真しか写せなかった。もっと強力なのをと、手に入れたのがレフレックス・ニココール 500 ミリ。反射望遠鏡式なので全長が 50 センチより短くて、これまた手持ちでも十分使え

る、値段も手ごろという優れもの。しかし使った記憶がございません。

気がつくとかメラから遠ざかっていた。現在は、ガラケーを手に入れたのを機に、ムシを相手にどうしてうまく写らんのだ、と悩んでいる。

あおり

PC ニックールというレンズを手に入れた。あおり撮影ができる特殊用途のレンズ。イさんに商品を写してくれと頼まれた時に、ニコンのレンズ群の中にあおり機能の特殊なレンズがあることを知っていたので購入した面白いレンズ。値段も無理なかった。

一般的なカメラで直線的なピルを見上げて写すと、エンタシスを写したように歪んで写る。歪みをできるだけなくそうとすると工夫がおり撮影。建築写真家が使う手段。

蛇腹式カメラの時代にはよく使ったらしい撮影法で、フィルムとレンズを建物と平行にしたまま、レンズを平行移動して被写体を画面に捉える。理屈については各自インターネットで調べてレポートにして提出のこと。質問は許さない。とにかく建物が真っすぐに写せる、今はそれだけ納得すればよい。

PC ニックールは、上下左右にレンズを動かせるようになっている。操作は簡単だが、うまく写せるかどうかは別問題。頼まれた写真は、夕間近と

いうこともあって期待したように見事な出来とならなかったのはくやしい。

青年は南をめざす



これこの通り南の島へ行ったゾ、と言ったら信じてもらえないかな。本物本場のタヒチアンダンス。1977/8/17。モーレア島（タヒチ）バカンス州のツエルカムパーティー。

消化器に弱点があったので、遠出はしなかった。しかし思い出すと結構あちこち日本の南北、南洋の小島へと出かけている。さくへきの皆さんのお蔭さまで。

車旅ばかりでなく、電車、飛行機、船といろいろ思い出すが、自分でコースを練ったわけではないせいか、パンバランのトギレトギレのゴチャゴチャ。思い出したのはいつどこへ誰と行った時のことなのか、チンブンカンペン、トンデンカン。

電車で房総半島一周をカさんに誘われた。裏の山（さとやまというのかな）を所有していると聞いてびくり。私の親は関東平野のまっただ中の育ちなので、山というのは珍しく面白かった。

200 ミリレンズをもっていたが、曇りだったせいもありあってもはつきりしない

写真しか残っていない。この時を含めて、カ家所有の山では、山芋掘ったり猟銃？を触らせてもらったりアケビを探したりと、色々経験した。

タさんらとの、市川学園軽井沢学会での夜は、ホテルが迷い込んで来て浮世ばなれしたひと時だった。帰途、屋敷の店のテレビが浅間山荘での政府を報じていて、まだやってたのかとあきれた。いやまて、東大安田講堂の攻防だったかな。さて、浅間も東大も寒い時期だったようだな。とするとホテルと合わない。誰と何処へ行った帰りでだったのかな。妻籠宿？ ほかの思い出も大分あやしくなってきた。

この頃、イさんは南の小島指向だったようで、あちこちらと船旅をしていたようですが？

神津島へ誘われた時だったと思うけれど、乗り物に弱く船旅は初めてだったので酔い止めをたんまり飲み込んだ。船酔いはしなかったが、島に着い



カさんの、ふるさと行きドライブに便乗して寄った太東町。この近くの、友と遊んだ頃の、獲れかかったしめじのまはり、護岸が造られてわからなくなっていた。2012/6/27。カさん提供